

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語117人	社会116人	数学117人
	理科118人	英語118人	

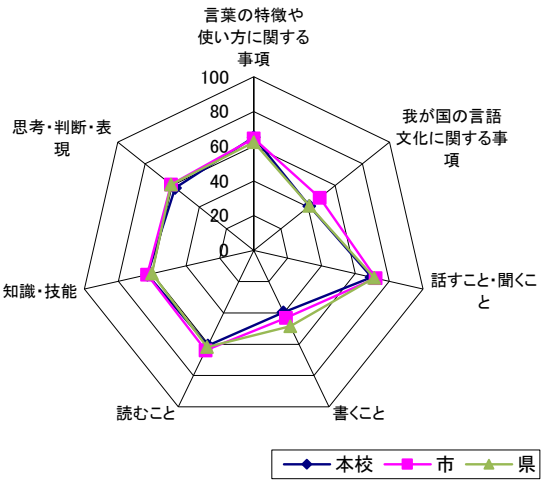
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	41.0	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	69.7	72.1	71.2
	書くこと	39.7	43.1	48.5
	読むこと	60.8	63.9	61.8
観点	知識・技能	62.8	62.9	60.1
	思考・判断・表現	57.8	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

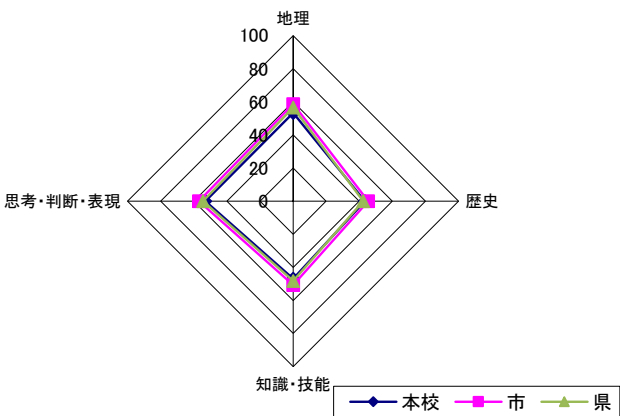
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は、市平均を0.7ポイント、県平均を2.9ポイント上回った。 ○漢字の読みの問題の正答率は、市平均・県平均を上回った。 ○文節の関係が同じ文を選ぶ問題の正答率は、市平均・県平均を上回った。 ●漢字を書く問題の正答率は、市平均・県平均を下回った。	・漢字練習の時間を増やしたり、自分の手で文章を書く機会を多く設けたりするなどして、漢字を正しく使えるよう指導する。 ・引き続き、語彙力を高めるために、ことわざや慣用句、文法などの単元では、丁寧な個別指導を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を7.7ポイント、県平均を0.1ポイント下回った。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は、市平均・県平均を下回った。	・様々な古典の作品に触れたり、過去と現在の人々の生活や考え方を比較したりする時間を設けるなどして、古典への興味・関心を高める。 ・音読を通して古典特有のリズムを味わいながら、古典の基礎事項を定着させる。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を2.4ポイント、県平均を1.5ポイント下回った。 ○話の構成に関する問題の正答率は、市平均・県平均を上回った。 ●条件に従って話し合いのまとめを書く問題の正答率は、市平均・県平均を下回った。	・話を聞くときにメモをとらせ、その内容についてまとめるなどの活動を取り入れながら話のポイントをおさえられるように指導する。 ・引き続き、自分の考えを発表する場を増やし、自分の意見や考えを述べるパターンが身に付くよう指導する。
書くこと	正答率は、市平均を3.4ポイント、県平均を8.8ポイント下回った。 ○2段落構成で文章を書くという条件を満たして文章を書くことができる生徒は比較的多い。 ●読み取った内容を明確にして書くことについて、市平均・県平均を下回った。 ●自分の考えを根拠を明確にして書くことについて、市平均・県平均を下回った。	・条件にあわせて記述する練習を授業で多く取り入れ、文章の書き方が定着するよう指導する。 ・単元の感想や意見など、自分の考えを書く活動を多く取り入れる。その際、考えの根拠を明確にして書けるように指導する。
読むこと	正答率は、市平均を3.1ポイント、県平均を1.0ポイント下回った。 ○場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題の正答率は、県平均を上回った。 ●文章の内容をふまえた募集ちらしの書き方として適するものを選ぶ問題の正答率は、市平均・県平均を下回った。	・要約する活動を取り入れ、文章の要点を押さえることができるよう指導する。 ・引き続き、内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	53.3	58.7	56.6
	歴史	43.4	45.4	42.4
観点	知識・技能	46.9	50.7	48.2
	思考・判断・表現	53.0	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

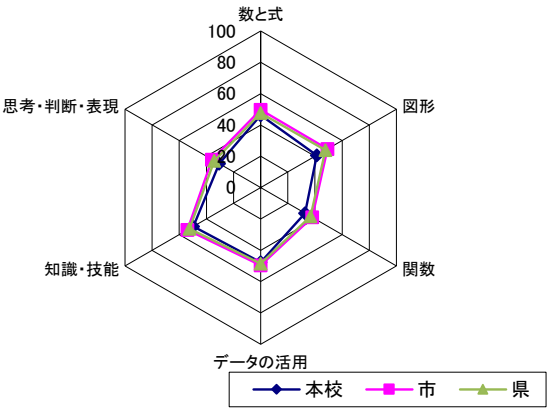
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、市平均を5.4ポイント、県平均を3.3ポイント下回った。 ○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アフリカの国の経済的な課題について表現する問題では、正答率が県平均を上回った。 ○熱帯と亜寒帯の地域でみられる住居が高床である理由について、資料を基に考察する問題の正答率が高かった。 ●様々な図法の地図の特徴とその読み取り方について理解しているかどうかを見る問題で、市平均と比較した正答率の下回り幅が最も大きかった。 ●東南アジアの国々に関する統計資料を読み取ることができるかどうかを見る問題の正答率が他の問題と比較して最も低かった。 ●記述式問題において、無回答率が高い。	・授業の初めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 ・様々な世界地図を活用する機会を増やし、図法による特徴の違いや長所・短所について理解させるとともに、それぞれの地図から正確に読み取る技能を高めていく。 ・統計資料から読みとれることをまとめたり、話し合ったり、発表したりする活動を通して、資料活用能力を高めていく。 ・記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても「資料から読み取れることは何か」を考えさせ、自分の言葉で表現させる活動を多く取り入れ、表現力を高めていく。 ・資料活用問題に数多くふれさせ、資料から何を読み取ればよいのかを推測することができるようにさせていく。
歴史	正答率は、市平均を2.0ポイント下回ったが、県平均を1.0ポイント上回った。 ○古代の日本に関する資料を読み取ることができるかどうかを見る問題では、市平均と比較した正答率の上回り幅が最も大きかった。 ○古代から中世への社会的な変化について、複数の資料を関連付けて考察しているかどうかをみる問題では、市平均を上回った。 ●複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現しているかどうかをみる問題で、市平均と比較した正答率の下回り幅が最も大きかった。 ●桓武天皇の政治に関連する資料や建設物について、資料を基に判断しているかどうかをみる問題の正答率が低かった。 ●記述式問題において、無回答率が高い。	・授業の初めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 ・歴史に関する様々な情報を効果的に活用して調べてまとめる活動を取り入れ、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察していく力を高めていく。 ・記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても「資料から読み取れることは何か」を考えさせ、自分の言葉で表現させる活動を多く取り入れ、表現力を高めていく。 ・資料活用問題に数多くふれさせ、資料から何を読み取ればよいのかを推測することができるようにさせていく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	46.3	49.7	47.6
	図形	41.3	49.2	47.7
	関数	32.6	38.0	36.8
	データの活用	47.7	49.6	48.5
観点	知識・技能	49.6	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.6	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

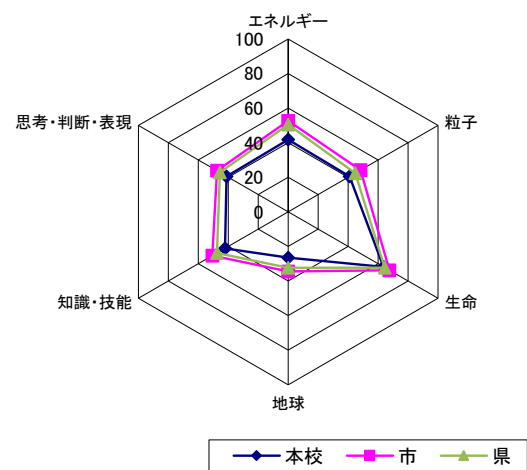
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市平均を3.4ポイント、県平均を1.3ポイント下回った。 ○四則の混じった計算や移項を必要としない方程式の計算の問題では、市平均・県平均を上回った。 ●思考・判断・表現の問題では、市平均・県平均を下回り特に、与えられた情報を読み取って文字を用いた式に表すことや不等式が表していることを説明することに課題が見られた。	・基礎的な問題を繰り返し解くことで、文字式のルールや計算に慣れることができるよう、今後も問題集やAIDリル等を取り組ませる。また、間違えた解答例を示してどこでつまづいたのかを考えさせる場面を設定し、計算の手順を定着させられるようにする。 ・思考力や表現力を高められるよう、自分の考えを説明したり、他の生徒の考えを聞いたりする対話的な学びを重視した授業を行っていく。
図形	正答率は、市平均を7.9ポイント、県平均を6.4ポイント下回った。 ●半球の表面積の求め方について正しくない理由を説明する問題やおうぎ形の面積をもとにおうぎ形と半径が等しい円の面積を求める問題では、無回答率が高かった。 ●立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める問題の正答率が低かった。	・基本的な図形の求積問題だけでなく、複合図形の問題も授業で取り組ませるようにする。その際、小集団活動や話し合いの時間を十分に取し、様々な解決方法について比較・検討させ、図形の見方を広げられるように指導していく。 ・空間図形については、目的に応じて空間図形の一部を平面上に表したり、それを読んだりする活動を授業で指導し、様々な図形の問題に対応できる力を育てる。
関数	正答率は、市平均を5.4ポイント、県平均を4.2ポイント下回った。 ●思考・判断・表現の問題では、市平均・県平均を下回り、特に会話中の比例のグラフの直線について説明する問題の無回答率が高かった。 ●与えられた条件から答えを求める問題や与えられたグラフから三角形の面積の差を表している部分を答える問題の正答率が低く、比例・反比例の利用について課題が見えられた。	・今後も、伴って変わる2つの数量について、表や式、グラフを用いて関数関係を捉えることを基本として、事象から関数関係を考察し表現する力を育てる。 ・授業の中で比例や反比例の文章問題、グラフ問題、式を求める問題など、様々な形式の問題を解くことで、比例・反比例の関係を応用する力を養っていけるようにする。
データの活用	正答率は、市平均を1.9ポイント、県平均を0.8ポイント下回った。 ○度数分布表から累積度数を求める問題では、市平均・県平均を上回った。 ●ヒストグラムから読み取った傾向をもとに自分の考えを理由とともに説明する問題の正答率は、他の問題よりも低かった。	・基本的な用語の指導については、代表値を求めさせるだけでなく、それぞれの特徴や、どのような状況で活用するのが適切かを理解させることができるように指導する。 ・データの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断する学習では、グループワークを取り入れ、班で協力してデータを分析する中で多様な視点を学ぶことができるようにする。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	41.8	52.7	50.5
	粒子	41.0	48.3	44.9
	生命	63.6	67.6	64.4
	地球	26.4	34.4	32.3
観点	知識・技能	42.2	50.7	47.6
	思考・判断・表現	41.2	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

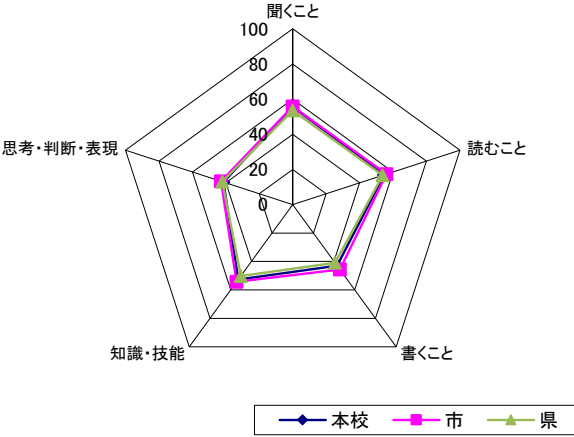
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、市平均を10.9ポイント、県平均を8.7ポイント下回った。 ○実験結果から焦点距離を求める問題では、市平均・県平均ともに上回った。 ●虚像の作図、重力とつりあう力を選ぶ問題では、市平均・県平均ともに下回った。	・光や音の単元は、1時間の授業の中で内容が完結することが多く、定着しにくいことを防ぐため、復習を取り入れたり、短時間で演示実験を行い、内容の再確認をしたりする時間を設ける。 ・光の進み方、力の関係の作図については、基本的なところから繰り返し学習させ、知識技能を定着させる。また、図から読み取ることも必要になってくるため、練習問題などを繰り返し解く時間を多く取り入れる。
粒子	正答率は、市平均を7.3ポイント、県平均を3.9ポイント下回った。 ○質量パーセント濃度を用いて塩分の量を求める問題では、市平均・県平均を上回った。 ●シャボン玉がドライアイスに浮かぶ説明を選ぶ問題では、市平均・県平均を下回った。	・粒子の分野においては実験が多い単元であり、実験結果について科学的な見方から考察できるよう工夫して指導する。 ・グラフ化やモデル化の内容は、学年が進むにつれて難しくなるため、その都度基礎・基本の確認を行うとともに、理解の定着につながる授業展開を工夫していく。 ・グラフからの読み取りなど数学科と指導方法について共通理解して指導していく。
生命	正答率は、市平均を4.0ポイント、県平均を0.8ポイント下回った。 ○両生類と爬虫類の分類を修正する問題、節足動物から昆虫類ではないものを選ぶ問題では、市平均・県平均を上回った。 ●被子植物の花のつくり、葉の特徴から植物の種類を選ぶ問題では、市平均・県平均を下回った。	・生命分野の学習は、生徒も比較的取り組みやすく、好きな単元であるが、生物の理解が乏しく、名前を知っている程度になっている。授業で一步踏み込んだ点に触れたり、一人一台端末を活用するなど、生徒の興味・関心を高める時間を確保する。 ・植物の単元は一番最初の単元であり、忘れてしまう生徒が多いため、復習の時間を設け、基本的な知識の定着につなげる工夫をする。
地球	正答率は、市平均を8.0ポイント、県平均を5.9ポイント下回った。 ○柱状図から地層の傾斜を推測する問題では、市平均を・県平均を上回った。 ●火成岩の特徴から鉱物を選ぶ問題、花崗岩のでき方について、時間的・空間的な視点から説明する問題では、市平均・県平均を下回った。	・地球分野の学習は、用語の正しい理解が定着していないことが多いため、分かりやすく整理した説明や板書を心掛ける。また、自主学習を通して、自分でまとめたり、確認をしたりできるように指導していく。 ・地学的事象については、科学的な根拠をもとに考えることを習慣づけさせる。また、問題に慣れることも必要になるため、問題を解いて練習する時間を設ける。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.6	55.8	53.5
	読むこと	54.6	56.0	53.8
	書くこと	42.9	45.6	40.9
観点	知識・技能	52.7	54.3	50.2
	思考・判断・表現	41.4	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は55.6%と、市町全体(55.8%)とほぼ同等であり、県全体(53.5%)を上回っている。特に、絵やグラフから情報を読み取る問題では高い正答率を維持している。また、無解答率が1%未満であり、生徒が最後まで取り組む姿勢が見られた。 ●日常的な話題を聞き取り、自分の考えを記述する問題では、正答率が22.0%と非常に低い。単に情報を聞き取るだけでなく、その情報に基づいて自分の考えをまとめ、記述する力が不足していることを示唆している。	・推測・要約の練習：リスニング素材を聞いた後、「話し手の意図は何か」「話の要点は何か」を生徒同士で話し合わせる活動を取り入れ、単語を追うだけでなく、全体像を捉える力を養う。 ・意見交換の場：聞き取った情報をもとに、「あなたはと思うか」といった質問を投げかけ、自分の意見を英語で表現する練習を繰り返すことにより、インプット(聞く)とアウトプット(書く・話す)の連携を強化する。 ・多様な音声教材の活用：ニュースやインタビュー、物語の朗読など、多様なジャンルの音声に触れる機会を増やし、異なる話し方や文脈での聞き取りに慣れさせる。
読むこと	○平均正答率は54.6%で、市町全体(56.0%)とほぼ同等であり、県全体(53.8%)を上回っている。特定の情報を読み取る問題では、比較的高い正答率を維持しており、指示された情報を正確に読み取る力は良好であった。 ●概要把握と要点整理の課題：短い文章の概要や要点を捉える問題では、正答率が50%台にとどまり、正確な情報読み取りに比べると課題が見られた。特に、空欄補充問題では正答率が30.5%と低く、文脈を理解して適切な語を補う能力に課題が見られた。	・スキミングとスキニングの習得：文章を読む前に「何について書かれているか」を素早く把握するスキミング、特定の情報を探し出すスキニングの技術を指導する。 ・内容要約と意見記述の統合：短い文章を読んだ後、その内容を日本語または英語で要約させ、さらに内容に関連する自分の考えや経験を記述する活動を取り入れる。 ・文脈読解を促す問いかけ：「この単語が使われているのはなぜか」「この文の後に何が続くと思うか」など、文法や単語だけでなく、文章全体の流れや構造を考えさせる問いかけを授業中に積極的に行う。
書くこと	○一般動詞の過去形や三人称単数現在形など、基本的な文法事項を用いた問題では50%以上の正答率を確保しており、定型的な文法知識は比較的定着している。 ●平均正答率は42.9%で、県全体(40.9%)は上回っているものの、市の平均(45.6%)とは2.7ポイント下回っている。他の領域に比べて正答率が低く、特に、まとまりのある文章を書く問題では正答率が9.3%と極めて低く、文章構成力が大きな課題である。	・文の組み立て練習：複数の単語やフレーズを与え、意味の通る文を組み立てる練習を反復して行う。主語、動詞、目的語などの文の骨格を意識させる。 ・テーマ別ライティング：身近なテーマ(例：好きな食べ物、休日の過ごし方)について、まず日本語でアイデアを箇条書きにし、それを英文にする練習を行う。導入、本論、結論といった文章構成の基本も併せて指導する。 ・多様な表現の指導と活用：異なる文法事項や接続詞を適切に使う練習を意図的に組み込み、単調な文ではなく、より豊かで自然な文章が書けるように促す。また、生徒同士で書いた文章を読み合い、フィードバックし合う活動も積極的に取り入れる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)」の質問に関して、「1時間」以上勉強している生徒の割合が59.0%であり、県の平均と同程度であった。「2時間以上」と回答した生徒は23.7%であり、県平均22.4%より上回っている。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合が74.6%であり、県の平均を1.3ポイント上回った。これまでの生徒の知的好奇心を生かした授業作りの成果が見られる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合が73.0%であり、県の平均を2.8ポイント上回った。授業や家庭学習において、生徒のタブレット等のICT機器の活用が見られる。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合が63.9%であり、県の平均(53.5%)を10.4ポイント上回った。今後とも教科横断的な学習とキャリア教育に関連付けて各教科指導に取り組む。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は94.24%であり、県の平均を4.9ポイント上回っている。今後も生徒が充実した学校生活を送れるよう授業はもとより、特別活動や学校行事、生徒会活動などの充実を図る。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は91.8%であり、市と県の平均を2～3ポイント上回っている。今後も自分の考えをまとめて発表できるような授業設計を図る。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は85.2%であり、市と県の平均を3～4ポイント上回っている。今後も学業指導を推進し、他人の意見を尊重し認められるよう発言しやすい授業環境づくりに努める。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は91.8%であり、市と県の平均を4.5ポイント下回っている。授業では発言の機会が与えられ、クラスは発言しやすい雰囲気にもかかわらず、話し合い活動がやや不足していることがわかった。今後はタブレットを活用しながら、話し合い活動がよく行われるよう授業設計を行っていく。

●「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は95.9%であり、市と県の平均との差は見られなかったが、「はい」と回答した割合に注視すると本校生徒は63.1%であり、県の平均(76.8%)から13.7ポイント下回っている。また、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の質問に対しても、市や県との平均よりも下回る傾向が見られた。これは、教師側としては授業のめあては提示はしているものの、それが生徒にとって生きた課題となっていない可能性が示唆されている。本校の重点課題が「ねらいの提示」であることを考えると、今後さらに対策が必要となる。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は77.8%であり、県の平均と比較して3.6ポイント下回った。「はい」と回答した割合では8.3ポイント下回っている。これについても本校の重点課題であるので、今後さらに対策が必要となる。

●「ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームは除く)」の質問に対して「4時間以上」と回答した生徒が18.9%で県平均を2.2ポイント上回った。また、同様にテレビやスマホでゲームをする時間は、「3時間以上」と回答した生徒が34.5%で県平均を4.4ポイント上回った。スマホやインターネットの利用時間については保護者会等でも啓発しているが、今後も更に保護者との連携が必要である。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』の推進	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定的回答が県や市と同程度であるが、回答「はい」のみで比較すると市平均(72.0%)、県平均(76.8%)に対して本校(63.1%)と下回っている。生徒が「本時の課題」をはっきりと理解でき、学習の見通しが立てられるよう、継続して実践していく。
	②生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が県や市と比べて6%下回っており、「はい」の回答のみで比較すると県や市と比べて12%下回っている。各教科での話し合い活動において、自分の考えを伝えることはできるが、その中で得た新しい情報を自分の考えに取り入れて深めたり、広げたりするまでには至っていない。自分の考えをもとに、対話を通して考えを広げ、深められるよう指導を工夫していく。
	③「振り返り」活動の徹底	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が県や市と比べて5%程度下回っている。本時の授業で分かったこと、新たな疑問、自分の変化や成長など、生徒自身の学びの進化やつまづきの改善に繋がるよう、ねらいをもった「振り返り」を計画的に位置付けて指導していく。

(2)家庭学習のより一層の充実	・自主学習ノートの活用の充実化, 点検, アドバイス, 賞賛 ・家庭学習の充実	「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が県や市と比べて6～7%下回っている。また、質問(8)「学校の授業以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の2時間以上の回答が県や市と比べて差はないが、3時間以上の回答に対しては、市や県の平均が4%に対して、本校は1.6%と下回っている。今後とも家庭との連携を図り、家庭学習の課題と言える。 「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答は県・市と比べて大きな差は見られないが、「はい」の回答に対しては6～8%ほど下回っているので、家庭学習を充実させるために、授業中のアドバイスを継続していく。
-----------------	--	--

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
授業の導入段階で生徒が自ら学びたいと思い、見通しをもって課題に取り組める「授業のめあて」の設定が課題であると考ええる。	宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」の、課題を「はっきり」とらえるための発問や資料の工夫	生徒自らがめあてを考え、わくわくドキドキするような課題を設定するために、次のような取り組みを行う。 ・生活やニュース、流行などと授業内容を結びつけ、自分事として考えやすくさせる。 ・「なぜ?」「どうして?」という問いを投げかける。 ・画像や動画、グラフなどのデータを示し、それをもとに話し合い活動を行う。 ・選択肢を用意し、仮説を立てさせ、どのような方法で検証するか考えさせる。 ・タブレットを使用し、スクールタクトなどで生徒1人一人の考え方を共有させる。